

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【新和小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識の定着は個人差が大きいので、個別に必要な支援を講じていく。「ドリルパーク」「スタディサプリ」を授業や宿題でも活用し、反復・習熟を今後も行き、基礎的・基本的な力が身に付くようにしていく。
思考・判断・表現	算数の「データ活用」に課題が見られたため、資料を複合的に読みとる活動を、他教科でも行っていく。授業の中で、考え方の理解を深めるために、児童同士で話し合わせ、考えを伝え合う協働的な学びの場を今後も設定し、その際、タブレットを使用し、児童同士の考えを共有したり、共同編集をしてグループの意見をまとめたりする活動を通して、思考力や表現力を今後も高めていく。
主体的に学習に取り組む態度	昨年度より向上している傾向にあるが、児童が自ら考え、決め、取り組む「学びの自律化」を、どの児童もできるようにしていきたい。一人ひとりが主体的に日々の学習に取り組めるよう、児童の学習意欲を高められるような声掛けや働きかけを今後も行っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語と算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校結果より2pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を授業や朝の時間に積極的に活用し、反復・習熟を行う。その際、児童の学習履歴を確認し、毎週木曜日に個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語と算数の「思考・判断・表現」をR4年度の自校結果より2pt向上させる。	⇒ ミライシードのオクリンクやムーブノートを活用し、思考を可視化して表現し、考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合をR4年度の値より4pt向上させる。	⇒ 全ての授業において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自己解決する場を設定する。また、授業後に振り返りを実施し、主体的に学ぶ態度を育てていく。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R4年度市学習状況調査の自校結果と比較し、R5年度の「知識・技能」の項目は、国語は1.1pt向上し、算数は同数値の結果となった。目標値にあと一步届かなかった。	B
思考・判断・表現	R4年度市学習状況調査の自校結果と比較し、R5年度の「思考・判断・表現」の項目は、国語は2.3pt向上し、算数は3.4pt向上する結果となった。国語、算数ともに目標を達成した。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合がR4年度の値より27pt向上し、目標を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+1pt、算数+10ptであった。国語では原因と結果など情報と情報との関係を読み取ること、算数では問われていることは何かを理解することに苦手な傾向が見られた。「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等で多くの問題にふれるとともに、学んだことが確実に身につくよう反復・習熟を行う。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+5pt、算数+15ptであった。情報量の多い問題から必要な情報を読み取り要約すること、複数のグラフから読み取ったことを言葉と文字を用いて記述することに苦手な傾向が見られた。複数の資料から必要な情報を集める活動を授業に取り入れ、知識と結びつけて問題を解く経験を積み重ねていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」において肯定的回答が97.2%であった。今後も児童が主体的に学ぶことができるよう、日々の授業を大切にしていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、漢字を文の中で正しく使うことについて課題が見られた。書き順や文の中の指示語についての理解は高い。算数では、除法の計算の理解に課題がみられる。引き続き、計算の方法と意味を考える指導を行っていく。はかりの針の読み方や単位の関係については理解が高い傾向が見られた。	小4	国語では、漢字を文の中で正しく使うことと主語・述語の関係理解に課題が見られた。指示語の理解や具体例を挙げて分かりやすく説明することはよくできている。算数では図形やグラフの読み取りの理解が高い傾向がみられた。3桁の除法や少数の減法に課題が見られたため、計算の反復・習熟を今後も行っていく。
小5	国語では、文章の書き方や構成についての理解に課題がみられた。読むことで作者の心情について描写を基に捉えることができていた。算数では、小数や分数の計算、複合グラフの読み取りに課題がみられたため、繰り返し計算練習を行い、複数の資料の読み取りを教科横断的に行っていく。	小6	国語では、主語・述語の関係と相手や場面に応じて適切な敬語を使用することに課題が見られた。文章全体の構成や話し手の意図を捉えることは理解が高い結果がでた。算数ではグラフの読み取りやデータ活用について課題がみられた。今後も資料を複合的に読みとる活動を、他教科でも行っていく。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし